


注目ポイント


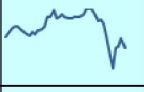




- ✓先週も、トランプ政権による「関税政策」が世界の金融市場を混乱させた。特に米国では、10年国債の利回りが大幅に上昇し、週間の上昇幅(約0.50%)は米国同時テロ後の2001年11月以来、23年5か月ぶりの大きさとなった。「相互関税」の発表以降、軟調となっている米株に加えて、先週は通貨ドルも他通貨に対して売られ始め、トリプル安となり米国売りの様相を呈している。
- ✓今週も、米国の資産や通貨ドルからマネーが逃避する流れが継続することが予想される。重要な経済指標の発表もないことから、引き続きトランプ米大統領の発言や中国の反応に注意が必要だろう。もちろん、米中対立の緩和があれば、各種マーケットの急反発が予想されるが、もはや市場参加者の多くが望むところでもある。(門倉英司)







①マーケット動向(実績データ)






2025年4月7日

2025年4月11日

市場・指標			4月7日 ~ 4月11日		4月11日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	 日本	日経平均 (円)	34,639	30,793	33,586	-195	-0.6%	
	 米国	NYダウ (ドル)	40,779	36,612	40,213	+1,898	+5.0%	
	 ドイツ	DAX (ポイント)	21,300	18,490	20,374	-268	-1.3%	

市場・指標			4月7日 ~ 4月11日		4月11日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)		
金利 (国債)	 日本	10年 (%)	1.400	1.105	1.270	+0.070		
	 米国	10年 (%)	4.59	3.87	4.49	+0.50		
	 ドイツ	10年 (%)	2.72	2.43	2.57	-0.01		

市場・指標			4月7日 ~ 4月11日		4月11日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)		
為替	 米ドル (円)		148.27	142.07	143.54	-3.39		
	 ユーロ (円)		163.13	158.30	163.03	+2.12		
	 豪ドル (円)		91.33	86.05	90.26	+1.47		

市場・指標			4月7日 ~ 4月11日		4月11日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	 日本	東証リト (ポイント)	1,717	1,617	1,707	+21	+1.3%	
	 米国	NY原油 (ドル)	63.90	55.12	61.50	-0.5	-0.8%	
		NY金 (ドル)	3,263	2,970	3,245	+209	+6.9%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。



②マーケット動向(振り返り&予想) 2025年4月14日 ~ 2025年4月18日

● 株式 底値固めに期待

日経平均
【予想レンジ】 31,000円 ~ 35,000円

- 先週の日経平均は、小幅下落。トランプ政権の相互関税を背景に、週初から、日経平均は一時31千円を割るなど、終値でも年初来安値を更新。その後、関税適用一時停止の発表や、米中による関税対立の報道により乱高下した。7日の下げ幅(▲2,644円)は歴代3番目、そして10日の上げ幅(+2,895円)は歴代2番目となる等、記録尽くしの週となった。
- 今週の日経平均は、底値固めが進むか。信用取引の追い証発生や自社株買いの減少で需給面は弱く、今週もトランプ米大統領の発言や中国の反応により乱高下が想定される。しかし、先週末には大幅下落する中、東証プライム市場の3割強の銘柄が上昇するなど一部の銘柄に、押し目を拾う動きが見られた。底値固めに期待したい。



● 金利(国債) もみ合いながら、居所を探る展開か

10年国債利回り
【予想レンジ】 1.200% ~ 1.350%

- 先週の国内金利は、上昇。週初には、株価の大幅下落を背景としたリスク回避の債券買いが旺盛となったが、その後は、株式市場の反発や米金利の上昇を受けて、債券価格は続落(金利は上昇)した。日銀の追加利上げ観測が後退する一方で、長期国債入札の不調に加え、「関税対策に消費税減税」との一部報道が、財政悪化懸念を連想させたため、短中期に比べて長期の金利に対する上昇圧力が強かった。
- 今週の国内金利は、居所を探る展開か。米インフレへの警戒や米国トリプル安の不安も熾り、米金利に上昇圧力がかりやすい。国内金利もつられる展開が想定される。一方、貿易競争激化による景気悪化懸念が強まる場面では、国内金利に下押し圧力が加わる可能性も。20年国債入札(15日)を確認しながら神経質なもみ合いが続こう。



為替(米ドル) 円買い優勢も、急反転に注意

米ドル/円
【予想レンジ】 140.00円 ~ 148.00円

- 先週のドル円は、円高ドル安が進展。トランプ米大統領の相互関税一時停止発表や米長期金利上昇による日米金利差拡大を背景に円売りが進む場面もあったが、総じて米中対立激化や景気悪化懸念を背景としたリスク回避の円買いが優勢だった。また、米国が「株安&債券安(金利上昇)&ドル安」と、トリプル安の状況になっていることから、市場では対円だけでなく他通貨に対してもドル安が進んだ。
- 今週のドル円は、円買いが優勢な展開か。米国トリプル安の流れから、ドル独歩安の可能性が高く、安全通貨としての円買いが優勢となろう。また、対日本では円安は正に関税交渉のテーマとなる可能性もドル買いの足枷に。ただし、米中対立の緩和があればドルの反発が想定され、注意が必要か。



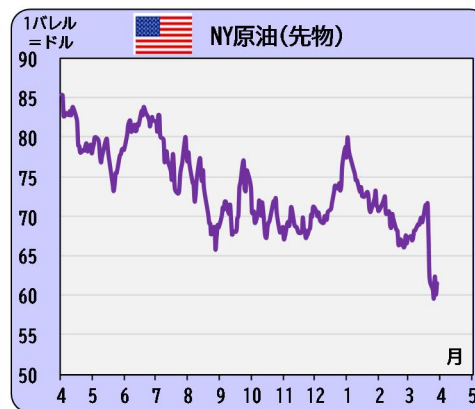
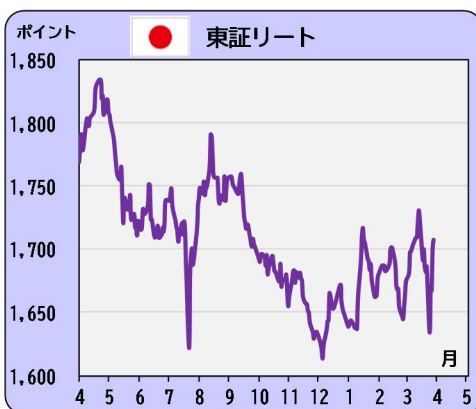
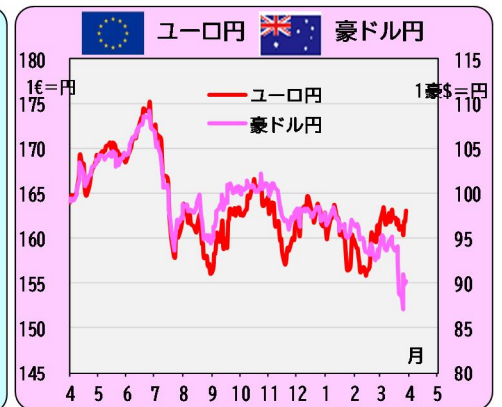
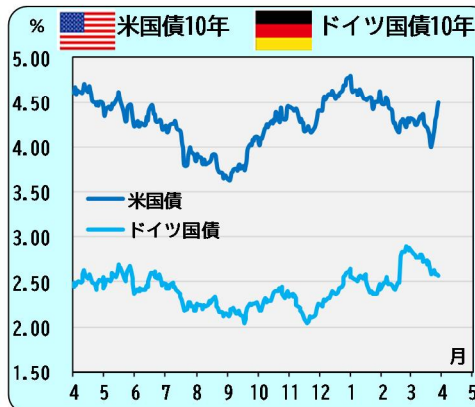
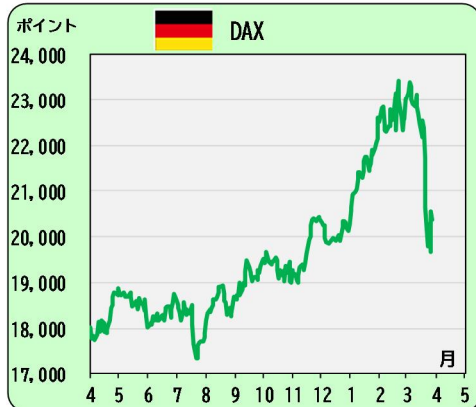
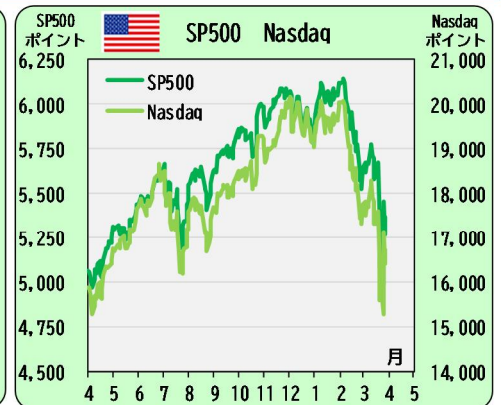
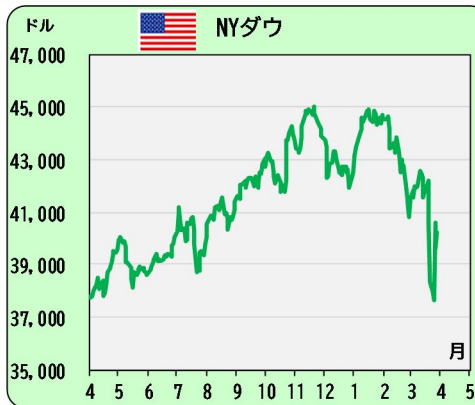
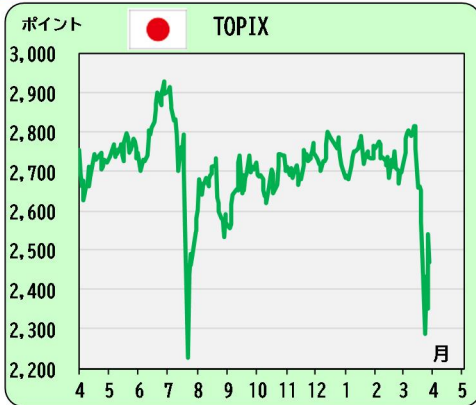
○今週の注目標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月日	国内	海外
4/14(月)		
4/15(火)	国債入札(20年)	
4/16(水)	機械受注統計(2月)	1-0: ECB定例理事会 米国: 国債入札(20年) 米国: 小売売上高(3月)
4/17(木)	貿易収支(3月)	米国: 住宅着工件数(3月) 米国: フィラデルフィア連銀景気指数(4月)
4/18(金)	全国消費者物価指数(3月)	米国: 祝日(聖金曜日)



③その他チャート集

直近1年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PBR	株価純資産倍率
CTFC	米商品先物取引委員会	FTA	自由貿易協定	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	GDP	国内総生産	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	IMF	国際通貨基金	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IEA	国際エネルギー機関	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	SQ	特別清算指数
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	TPP	環太平洋経済連携協定
FF	フェデラルファンド	OPEC	石油輸出国機構	WSTS	世界半導体市場統計
FOMC	米公開市場委員会	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)

●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客様ご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いします。